

# Mémoire 2025

## 第75回 安田記念 (GI)



## 2,3歳時に続き、マイルGI制覇

世代のマイル王者が鮮やかに復活。あらためてその能力の高さを証明し、現役最強マイラーを高らかに宣言した。

ドバイターフで香港のロマンチックウォリアーを下した前年のJRA賞最優秀マイラー、ソウルラッシュ。2歳時に朝日杯フューチュリティS、3歳時にはNHKマイルCを制し、これが4歳初戦のジャンタルマンタル。そして2走前の中山記念をコースレコードで勝利しているシックスペンス。春の最強マイラー決定戦は、この3頭が三つ巴の人気でレースを迎えた。

ゲートが開くと、マッドクールとウインマーベルが先頭を争って前へ。直後のジャンタルマンタルはしばらく進んだところで外から他の馬に來られてエキサイトしてしまうが、懸命に手綱を引いて抑えた川田将雅騎手が「そこからこの馬としては我慢がきました」と振り返ったように、なんとかリズムを取り戻して3番手を追走。シックスペンスがすぐ内に付き、ソウルラッシュは中団を進んだ。

直線、抜群の手応えで前2頭に迫ったジャンタルマンタルが満を持してスパート。伸びを欠くシックスペンスを尻目に、残り200mで先頭に並ぶと一気に突き放した。最後はガイアフォース、ソウルラッシュ、

ブレイディヴェーグの2着争いを1馬身半後方に見ながら悠々とゴール。GI・3勝目を三たびマイル戦で飾った。NHKマイルC勝ち馬による安田記念勝ちも、史上初の快挙となった。

前年の秋は熟発で富士Sを回避し、その後の香港遠征で13着と大敗するなど順調さを欠いた。半年の間隔を空けて見事に立て直した高野友和調教師は「ジャンタルマンタルの第2章が始まりました」と力強く宣言。安田記念がGIに格付けされた1984年以降で、単独最多の4勝目となった川田騎手も「馬自身が、本当に日本で一番強いマイルの馬なんだと証明してくれたと思います」とパートナーに最大限の賛辞を贈った。

### 第75回安田記念 (GI)

6/8 東京競馬場 1,600m(芝・左) 曇・良 18頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ジャンタルマンタル	牡	4	58	川田 将雅	高野 友和	1:32.7	②	③③
2	ガイアフォース	牡	6	58	吉村誠之助	杉山 晴紀	1 1/2	⑨	⑧⑧
3	ソウルラッシュ	牡	7	58	浜中 俊	池江 泰寿	クビ	①	⑫⑫
4	ブレイディヴェーグ	牝	5	56	戸崎 圭太	宮田 敬介	クビ	④	⑧⑧
5	ウインマーベル	牡	6	58	松山 弘平	深山 雅史	クビ	⑩	⑪⑫

ジャンタルマンタル  
栄光の蹄跡

10

Palace Malice 118 M  
ジャンタルマンタル  
インディアマントゥアナ (Wilburn)  
2021.3.21 生 千歳・社台ファーム



牡4  
黒鹿  
58  
かわだ しょうが  
川田 将雅  
1985.10.15生 B型  
南社台レースホース  
高野 友和(栗東)

2024.12.8 香港  
香港マイルGI  
14ト — 13(100)  
56.5<sup>+</sup>。川田 将雅  
芝1600良 1:34.8

2024.5.5 東京  
NHKマイルカップGI  
18ト 2人 1(118)  
57<sup>+</sup>。川田 将雅  
芝1600良 1:32.4

2024.4.14 中山  
皐月賞GI  
17ト 3人 3(117)  
57<sup>+</sup>。川田 将雅  
芝2000良 1:57.2